

パートナーシップおかや

No. 9

岡谷市男女共同参画推進市民の会

「ワーク・ライフ・バランス」と「幸せ」ということ

岡谷市男女共同参画推進市民の会 三澤 勲

出産後に育児休業を取り、「仕事」と「育児」を両立させている女性が増えています。結構なことであり、今後とも増えていって欲しいと思いますが、そうした場合、育児や家事の負担は女性により重くのしかかっているのが現実です。「仕事と育児の両立」を実践されている女性たちは、本当に「幸せ」なのだろうか、と考えてしまいます。

仕事をするか育児をするかは、言うまでもなく個人の「選択」に委ねられているのですが、その両立が難しくなっている現代においては、「仕事」を優先するばかりに出産・育児を見送る傾向が強まっており、ひいてはこれが少子化の一因にもなっています。「個人の選択の問題」が「国レベルの問題」に発展してしまいました。

今や、「仕事と子育ての調和」が「国の優先課題」になってしまった現実を目の当たりにして、国（内閣府）は憲章を作り、次のように提唱しています。

①誰もがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たす（仕事）一方、
②子育て・介護の時間や、家庭、地域、自己啓発等にかかる個人の時間が持つ（家庭）、
③健康で豊かな生活ができる社会を実現する（幸せ）、『ワーク・ライフ・バランス』を目指しましょう・・・と。

ところで、ワーク・ライフ・バランスを論じる際、私たちは、①「仕事」と②「家庭」が両立できれば、③「幸せ」が実現できるかのように考えてきてしまいました。男女の格差をなくす「均等法」が整備されたことにより、女性の社会参画が進んだことは、大きな成果であると思います。しかし、このことが、「幸せ」とくに「女性の幸せ」に結びついているか、はなはだ疑問に思っています。

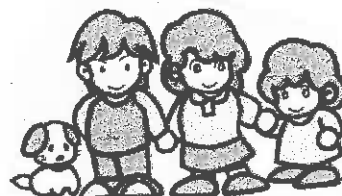
女性が仕事に就き、比較的長い時間、家庭から離れることによって、夫婦間で果たすべき「役割分担の形」が大きく変貌してきているにも拘わらず、男女ともに「新たな形の役割分担」への理解が進んでいないのではないのでしょうか。私たち「市民の会」は、現在11年目の活動を進めていますが、この「幸せ」とくに「女性の幸せ」をキーワードに、男女の「新たな形の役割分担への適応（賛同・理解）」ということに、少しでも貢献できる活動を展開していきたいと考えています。

役員が新しくなりました

市民の皆さんの心に訴え、共感いただき、進んでその心を豊かにするため、みなさんと手を取り合って「市民の会」の活動を進めて参りたいと思います。

平成24・25年度の役員です。宜しくお力添えをお願いします。

三澤 勲(会長) 小口 光子(副会長) 宮坂 安壽恵(副会長)



特集

〈改めて見つめてみましょう！ 「市民の会」活動の原点を〉

(子供の意識づくり)

冊子「わたしらしくあなたらしく」誕生の経過 その後の展開

皆さんは、4年前(平成21年3月)、「マンガで学ぶ男女共同参画」「岡谷市民提案のマンガ冊子完成」などの見出しで報道された新聞記事をご覧になったでしょう。その記事は、冊子「わたしらしくあなたらしく」が完成し発行されたことを伝えるものでした。(右写真)。

ところで、この冊子は、岡谷市(企画課)の協力を頂きながら、私たち「市民の会」が情熱を傾けて作り上げた「念願の一冊」です。

この冊子の「企画・執筆・編集・発行の経過」と、その後、この冊子が、どのように「活用」されているのか見てみましょう。

冊子づくりにかけた私たちの思い

「人は誰でも、男も女も、お互いを認め合い」「一人ひとりの個性と能力が発揮でき」「いきいきと生活できる」・・・このような意識を子どもの頃から身につけて欲しい。これが私たち「市民の会」の願いです。それは、冊子づくりにかける「思い」でもありました。

取り掛かりは10名の女性たち

平成19年、「市民の会」のメンバーが、岡谷市の事業「あなたがまちのプランナー——明日の岡谷をともに創る提案事業」のチラシを見て応募したのがこの始まりでした。市(企画課)の講座を6回受講したあと、「子どもの意識づくりのために『冊子』をつくり活用すること」を提案したのです。この提案は、岡谷市男女共同参画推進事業として採択され、市民が進める「市の事業」に格付けされたのです。

早速、私たち「市民の会」会員9名(当時は全員女性)が中心となり、神明小学校の校長先生(女性)に加わっていただき、「子どもの意識づくり 冊子作成委員会(事務局:市企画課)」が発足しました。



智恵を絞る・・・どんな内容にするのか

検討会を9回重ねて、冊子に取り上げる「内容」について熟慮しました。「男女が相互を認め合い、支え合って生活する世の中」を軸に、「男女平等」「男女の違い」「働くということ」「家族とは」「家庭にもルールを」「生命の大切さ」というテーマを、小学生高学年向けを念頭に、親しみ易い「マンガ」で表現していくことにしました。

「岡谷らしさ」も盛り込みたい

この冊子づくりが始まる1年前、岡谷市湊地区(花岡区)は、大きな「豪雨災害」を経験しました。この時、花岡区の皆さまは「結束した力」を発揮され、「町内の全員が無事避難」、「情報伝達が円滑に行われ、消防団等の救出作業もいち早く行うことができた」「被災後の復旧・復興も他の模範となるものであった」など、支え合って生活することの大切さを、適切な具体例として示してくれました。

私たちは当初から、冊子には「岡谷らしさ・独自色」も採り入れたいとの思いをもっていました。そこで、この花岡区の事例をヒントに「近所づきあい なぜ大事？」を項目のひとつに加えることにしたのです。

冊子を編集・制作する・・・それは1年がかりのマラソンレース

マンガは、箕輪町在住の漫画家・小尾あまりさんにお問い合わせしました。小尾さんは、小学生のお子さんをお持ちで、私たちが抱いていた趣旨をよく理解され協力して下さいました。「マンガの下書き」が何度も私たちとの間を往復したものでした。

子どもたちの心に響き、「男女平等 男女が相互を認め合い、支え合って生活する世の中にする」との意識が、子どもたちの心に育つ表現になっているのか自問自答しながら一年の月日が流れました。この間、市(企画課)担当者の献身的な協力も頂き、市民が進める「冊子づくり」は完成したのです。

男女共同参画テーマに



冊子完成……さっそく、小学生に配布

平成21年4月、出来上がった冊子は、学校を通じて市内の小学5年生・6年生に配布されました。冊子を完成させただけでなく、小学生に配布したことが反響を呼び、新聞各社は好意的な論調でニュースとして取り上げてくれました。

私たち「市民の会」としては、この冊子が、人権や男女共同参画意識を育むための「副読本」として活用されたり、保護者参観日等の際の「話題のひとつ」にして貰えたら嬉しいと思っていましたが、どのように活用いただくかは、各学校にお任せすることにしました。

なお、平成22年からは、小学5年生に配布されています。このことは、今も続けられています。

冊子活用の具体事例（平成22年度）

- ①ポスターの募集と優秀作品の表彰……岡谷市教育委員会・各学校のご理解と協力をいただき、夏休みを利用して、「この冊子をもとに『男女共同参画に関するポスター』を作り応募して欲しい」旨を小・中学生に働き掛けました。
その結果、90点余の応募があり、先生方に審査していただき、優秀作品を選ぶことが出来ました。また、優秀作品を寄せてくれた小中学生については表彰式を行い、出席いただいた市長さんよりその努力を讃えていただきました。この「ポスター募集」は、その後も毎年続けて行われています。
- ②冊子を読んだ感想(読後感・自分の思い)発表……12月開催「おかや市民のつどい」の会場で、市内の小学5年生11人に発表していただきました。来場の皆さまは感銘を受けていました。
- ③教材として活用された小学校がありました……冊子を教材に授業が行われ、子どもたちから「働くということは、お金を稼ぐということだけではない。働くことによって税金や保険料を払うことが出来る」「命って誰のもの？が一番印象に残った。命はリレーされている大切なもの」「男のやること、女のやること、と決めつけずに、それぞれが、自分の出来ることから協力し合えばいいのだ」等々、子どもたちの意識にも、変化の兆しを伺うことが出来ました。



冊子活用の具体事例（平成23年度）

「男女共同参画」についての作文発表……11月開催「おかや市民のつどい」の会場で、市内4中学校の生徒の皆さん4人が発表、来場された皆さまに深い感銘を与えてくれました。

また、来場の皆さまは、生徒さんたちの将来を期待して、大きな拍手で応えて下さいました。

- ①南部中学校2年・加藤舞さん＝「男性は育児を女性だけに任せて好きな仕事を続けられる、という社会は平等な社会とはいえない。子育てと仕事が両立できる社会を目指すべきだ。」
- ②東部中学校3年・清水佳夏さん＝「インターネットでジェンダーフリーの意味を知った。男女が平等に、それぞれの能力を生かしつつ自由に行動できる社会を作ることが大切なことだ。」
- ③西部中学校3年・清水栄良君＝「過去、男女差別の誤りを正していこうと奮闘・努力した人々のことを次の世代にも確実に伝えていくことで、より幸せな未来を築くことが出来る。」
- ④北部中学校3年・三浦遥菜さん＝「私の夢は保育士になること。男性保育士が増えることを望む。厚生労働省のイクメンプロジェクトに期待している。自分から踏み出して未来を創っていく。」

まとめ…「より深化した男女共同参画社会づくり」を目指して

冊子「わたしらしく あなたらしく」の企画・執筆・編集・発行の経過の中で、私たちは「市民の会」の活動の原点を再確認してきました。また「この冊子は、若い市民の皆さん自身とその周囲の皆さんの意識を変える『動機づけ役のひとつ』にもなっている」ことを知ることが出来ました。それに、小・中学生がポスターや作文に託してくれた「考え方・態度」は社会の貴重な「宝物」だと思います。

東日本大震災を経験して人々の価値観が大きく変わりつつある今こそ、私たち「市民の会」は、その活動の重要性を再確認し、「より深化した男女共同参画社会づくり」に努めて参りましょう。(小口光子)

6月23日(土)～29日(金)は

男女共同参画週間

日本では、平成11年6月23日に「男女共同参画社会基本法」が施行されました。これを記念して、毎年6月23日から29日までの1週間、その年々の課題をテーマに「男女共同参画週間」がもたれます。

本年は、昨年3月に発生した東日本大震災を受けて、男女共同参画の視点を踏まえた防災分野や地域・社会全体で男女共同参画をより一層促進するため、「男女共同参画による日本再生」をテーマとして、「あなたがいる わたしがいる 未来がある」をキャッチフレーズに、全国的に様々な啓発活動が行われます。

市民の会、活動内容紹介の「展示」

市民の皆さまに「男女共同参画」についての理解を深めていただくため、**展示コーナー**を設けます。多くの市民の皆さまに、お立ち寄りいただきたいと願っています。

期間:6月23日(土)～29日(金)

会場:イルフプラザカルチャーセンター催事場

展示の内容:

「市民の会」の活動紹介(23年度の活動の様子を写真とグラフで紹介)

①情報紙(パートナーシップおかや) NO.5～NO.8の各4ページ

②パートナーシップ講座

社会保険労務士・有賀徳子さん講演会

③ポスターコンクール(審査会・表彰式)

④男女共同参画社会づくり地域懇談会

⑤日本女性会議2011(島根県松江市)

⑥男女共同参画おかや市民のつどい

タレント・こんのひとみさん講演会

⑦あいとびあ祭り

ワークショップ「昔からのしきたり習慣
-----これでいいの?」を担当

⑧視察研修(山梨NPO法人・スペースふう)

⑨おかや男女共同参画フォーラム

加藤さゆり長野県副知事と語る会

⑩調査事項の報告

「子育て中のパパ・ママに聞きました」

⑪報告「男女共同参画推進活動

のネットワーク化」について

なお、展示会場では、下記2資料を希望者に配布する予定です。(部数限定)

①冊子「わたしらしく あなたらしく」

②冊子「中学生による男女共同参画についての作文(発表された内容)」

会場では、市民の会会員が案内・説明にあたります。

どうぞ、お気軽にお声を掛けて下さい。

東京では内閣府主催「全国会議」開催

男女共同参画週間の中央行事として「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」が開催されます。

日時:6月22日(金)13:00

場所:メルパルクホール東京(芝公園)

内容:

①基調講演(中大教授・山田昌弘氏)
演題「男女共同参画は日本の希望」

②パネルディスカッション

「女性の活躍による震災復興と
経済活性化について」

【お知らせ】

☆「日本女性会議2012仙台」

本年は、仙台市において、10月26・27日の両日にわたり開催されます。遠方での開催ですので、市でバスの準備は出来ません。参加希望者の募集については、別途ご案内します。

☆「あいとびあフォーラム」

7月 7日(土)開催(あいとびあ)

○本フォーラムの冒頭、市民の会は、朗読劇「(題目)働くこと・生きること」を上演します。

○劇の内容は「東日本大震災を経験し人々の価値観が大きく変わろうとしている中、今後の労働のあり方・生き方を考えてみよう」というものです。ご期待下さい。

☆「男女共同参画長野県フォーラム」

10月19日(金)開催(長野市)

詳細は、別途お知らせします。